



『マッスルスーツ Every』

高齢化に比例して要介護者が増え続け、厚労省の介護保険状況調査などから現在の約650万人から今後20年で約5割増えると推計され、介護施設の重要性が高まる一方、介護人材は2025年には約38万人不足するといわれる。このギャップに着目し、介護ICT製品や介護ロボットの販売事業に力を注ぐ若き経営者がいる。「株式会社エクセレントケアサポート」の代表大川寛正さん。医療機器メーカーに入社。企画、研究、開発、生産構築、営業を経験する。その後、介護の現場に触れ、「株式会社エクセレントケアシステム」に入社、「株式会社エクセレントケアサポート」を設立。

機器メーカーで研究職として企画、研究、開発などを経験し、この最中、両親が運営する介護施設を訪問した際、介護現場で働く人の大変さを目の当たりにしたのを機に介護業界に転じた。「介護現場の最前線で働いている人の負担や利用者の日々の不安を少しでも軽減できれば」との思

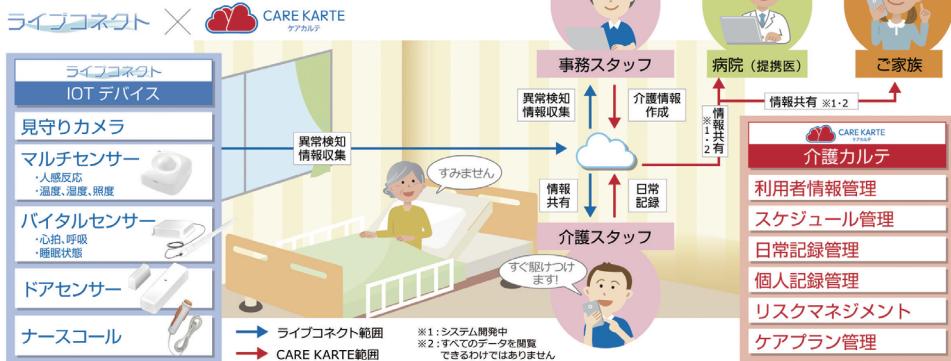
いが事業の推進力だ。

大川さんは、理工系大学院を修了後、医療機器メーカーで研究職として企画、研究、開発などを経験し、この最中、両親が運営する介護施設を訪問した際、介護現場で働く人の大変さを目の当たりにしたのを機に介護業界に転じた。「介護現場の最前線で働いている人の負担や利用者の日々の不安を少しでも軽減できれば」との思



※写真はコンセプトモデルを使用しており、実際の製品の沈み込みとは異なる。

## 見守りシステム eX-CareS™のイメージ



## 介護ロボットの販売事業の視野に 要介護者の増加と介護人材の不足

### 株式会社 エクセレントケアサポート

075-744-6512  
✉ excare-s@excare-s.co.jp  
④ 京都府京都市下京区河原町通松原上る清水町280-1  
<https://excare-s.co.jp/>



代表  
大川寛正 さん

幼少より人の役に立ちたいと感じ、大学院修了後、医療機器メーカーに入社。企画、研究、開発、生産構築、営業を経験する。その後、介護の現場に触れ、「株式会社エクセレントケアシステム」に入社、「株式会社エクセレントケアサポート」を設立。

### 介護の負担軽減に寄与 利用者を安全に見守り

各種のモノのインターネットIoTデバイスを用いて介護施設の居室内を管理をする「ライブコネクト」と、介護にかかる記録「CARE KARTE (ケアカルテ)」を連動させたシステムだ。

「ライブコネクト機能は、複数のセンサーデータを組み合わせて、居室内や入居者に発生する様々な事象を検知することができます。離床行動、ドアの開閉、トイレの利用、夜間行動、睡眠状態などの把握、居室内の温度管理、呼吸心拍数の測定などを自動で行い、異常があれば発報する仕組みです。モニターやタブレット、スマートフォンで居室内や利用者の状況を確認できるため、介護スタッフの負担が軽減されます。ケアカルテ機能は、モバイルを使つた簡単入力で記録や計画書作成、介護報酬請求、利用者請求をトータルにサポートします」

これも含め、介護施設型見守り支援機器は四種揃えている。このほかの製品では、介護現場など重労働の姿勢の維持や運搬などをサポートする動作支援用アシストスーツ「マッスルスーツ Every」、センサーやスマートアプリを用いて歩行機能を分析する「AYUMiEYE (アユミアイ)」、高い衝撃吸収性を発揮して転倒骨折リスクを軽減する置き床「corowawa」などもある。